



今井 武男 議員

### ものづくり産業全体のPRと販売拡大の取り組みは

#### 今後の療育制度は

【問】療育支援についての市の考え方は。また、施設の備品、用具の充実を図るべきでは。

【答】支援を必要としている利用者が5年前と比較すると4倍になっている。給付費、自己負担助成合わせて8,500万円支出している。整備、備品については今後計画的に進めていく。

#### 飛騨の匠認定制度の活用は

【問】飛騨春慶、一位一刀彫をはじめ伝統産業にかかる飛騨の匠認定制度について、どのように活用するのか。また国内外に向けたPRの考えは。

【答】飛騨高山の名匠に認定された方には伝統



伝統的工芸品 一位一刀彫

的工芸品等ものづくりの指導者として活躍していただくとともに、後継者の育成指導を行っていただく。今後高山市の優れた物産のPRや販売など、ブランド戦略を策定し国内外への情報発信に積極的に取り組む。

#### 消防団員の確保は

【問】全国的に減少している消防団員の確保と地域防災対策の確立についての考えは。

【答】国では、まち・ひと・しごと創生本部に設置された「全ての女性が輝く社会づくり本部」において女性消防団員の加入を促進している。県では「ありがとうね！消防団・水防団応援事業所制度」の充実を図っている。市では国県の制度とともに協力事業所表示制度や表彰制度など独自の制度を実施し、団員確保に努力している。



活躍する女性消防団員

#### 地方創生(CSIN)

【問】新年度において「地方版総合戦略」を5か年計画で策定することになるが、「地方創生」に向けては、地域づくり、人づくり、人口減少対策、定住対策、経済活性化、起業、創業、既存産業のすべての振興策が要となる。市として独自の特色や広域での考え方を含め新たな要素が必要となるが、地方創生実現に向けた施策は。

【答】主要テーマとして「歴史・文化・自然など地域資源を活用した地域づくり」、「インバウンドで人を呼び、アウトバウンドで売出し、暮らしやすい高山づくり」を盛り込む。また、飛騨地域の相互連携や近接する地域との連携を密に産業連携や災害



岩垣 和彦 議員

### 「まち・ひと・しごと」創り戦略！

連携を柱として強調していきたい。

【問】地域課題として既存産業の維持・活性化が重要である。多くの市民を雇用し地域内外へお金を循環させるのは地元の既存産業である。

地元産業の成功なくして「地方創生」はあり得ないが、看護師や介護士をはじめ、多くの専門職が圧倒的に不足している。人材バンクの設置で地域内の雇用調整機能も担えると考えるが、設置の考えは。

【答】「人材バンク」の必要性は認識している。現在、働く側と雇用の受け手側の需給バランス全体が把握しにくい状況である。

#### 停電の対応策(CSIN)

【問】昨年12月の停電で水道管の凍結防止が施

せなかった。水の出し流しによる凍結防止策に対し水道料金の減免はできないのか。

【答】水道メーターからカランまでの給水設備は所有者自らの財産としていて。停電時に電気ヒーターが作動しなかった場合でも自己防衛策が必要であり、減免できない。

【問】市は、窓口での市民の意見や相談に対し市民に寄り添って対応してほしい。市民意見を精査し、市民が求める必要な対策を整え市民が満足できる施策の構築が執行者として重要な責務と考えるが、見解は。

【答】窓口対応では、市民に不快感を与え過去に訴訟になった事例もある。誠心誠意、考え方を説明していく。

今後、市民や議会から意見を頂く機会として捉える。但し国や県の制度については、市において超越する判断は不可能であるため、今後、積極的に要望を行なっていく。